

「広島をもとに戻して」

平和宣言骨子

長崎は安保法案言及

広島への原爆投下から70年になる6日の平和記念式典で、松井一実・広島市長が読み上げる「平和宣言」の骨子が31日、発表された。「広島をまどうてくれ（もとに戻してほしい）」という方言を盛り込み、家族を失った喪失感や放射線被害に苦しんできた被爆者の思いを表現。「核兵器は絶対悪」とし、世界に向けて廃絶を訴える。

宣言では、核兵器廃絶を願う被爆者の思いは憎しみを超えた「人類愛」のメッセージだと指摘。各国の指導者が対話を重ねることが廃絶への第一歩になると訴える。クリミア危機をめぐ

るロシアのプーチン大統領の「核使用準備発言」などを念頭に置き、「核兵器が存在する限り、いつ誰が被爆者になるかわからない」と警鐘を鳴らす。

来年に伊勢志摩で主要国首脳会議（サミット）、広島で外相会合が開かれることを踏まえ、各国首脳らの被爆地訪問も要請。国会で審議中の安全保障関連法案については直接言及せず、「日本国憲法の平和主義が示す真の平和への道筋を世界に広めることが求められる」とする。31日に記者会見した松井市長は「世界に向けて発信する平和宣言では、国内の個々の議論より

も世界全体での平和への考え方を提示するほうが重みがある」と述べた。この日は田上富久・長崎

市長も9日の平和祈念式典で読み上げる平和宣言の骨子を発表。安保法案については「平和の理念が揺らいでいるのでは、という不安があるのは事実」とし、宣言で慎重な審議を求める考えを示した。がんなどの病気に苦しんできた被爆者の現状の説明なども盛り込む。（大隈崇、力丸祥子）